

理事長あいさつ

七尾 尊志

令和7年度も残り1週間となりました。皆様方におかれましては、本会に対しご支援・ご厚情を賜り、心より感謝申し上げます。お陰様で本年度の学校給食も無事に終わられそうです。

子どもたちが毎日楽しみにしている学校給食ですが、その学校給食を取り巻く環境は近年ずいぶん変わってきており、課題も多くみられる現状です。

さて、3月13日(金)に東京都で行われた「令和7年度一般社団法人全国学校給食推進連合会臨時社員総会」に本会から栗林常務理事が出席しました。開会にあたり白石幹幸会長が冒頭のあいさつでは、新年度から始まる「給食の無償化」に関し危惧される問題点について触れられました。

- 給食未実施校児童生徒や不登校児童生徒等約61万人の子どもたちの取扱いをどうするか？
- 小学校と中学校の食材費には大きな開きがあること。
- 生活保護世帯の児童生徒は元々無償であるが、さらに追加の支援があるのか？
- 月額5,200円の補助で、給食内容の充実を図ることができるのか？
- 安い食材が選ばれ、質の低下を招く恐れはないか？
- 見積り合わせや入札の増加は、事務負担の増加と質の低下が懸念される。米の安定供給と食材の提供に、食品メーカーと連携を密にして進めていく必要がある。

必ずしもよいことばかりではなく給食の無償化に伴い、以上のような問題点が予想されますが、一つ一つの課題解決に向けて柔軟に取り組み、所期の目的を果たしてまいりたいと思います。

本会は事業目的の柱の一つである「安全・安心で安価な食材の安定供給」は、学校給食の充実につながり、併せて食育の推進は明日を担う本県の子どもたちがこれからの変化の激しい時代を、生涯を通じて健康にたくましく生き抜くための基盤となるものと考えます。

私たちの目の前には、給食の時間を毎日楽しみにしている子どもたちがいます。食を愛し、しっかり食べて心身ともに大きく育っていけるよう、その健やかな成長を願い、学校給食での楽しさや安心と笑顔をさらに広げ貢献していけるよう、引き続き取り組んでまいります。